



新著聞集
八

13
115
8 上





新著聞集

清直篇第十六



継子嫡とらる

狐君命と懼る

浪人切腹

高債の革囊本いえる

阿州の大守賣紙と禁制す

二狐命と伏し盗の狐と縛まる

隙修政宗

二丈夫と伏し盗と狐を録す法

字を治す多田比とく

人女と海歩じ

賤物にものじ地めつるしと批判す

柿菓とくまふてあふ礼あてはさす

貧乏いごりあて己が海と出す

雲君泥僕ほひふ師の履と帯

美中に物あつて自誇、ほりあて訥ふ

賊とれしは徳とやくす

秘符病と瘰、却て宗旨とつじ

深茶開集

継女婿とこゝろ

阿別家中に三浦少将といふ人、きざし一々の

後、まよと設す、たにひも長くにまよとて後

を多かしく、まよの孫、あまは、某とまよは

まよふるの向、ゆり、今すたに、あせし、うら

あひと、あせし、うら、あせし、うら、あせし、うら

あせし、うら、あせし、うら、あせし、うら、あせし、うら

あせし、うら、あせし、うら、あせし、うら、あせし、うら

あせし、うら、あせし、うら、あせし、うら、あせし、うら

孫女之愛せしむるまはしりしやゆへに及んば
口行しきりしやゆへに士きりし者一し
何ぞしきりしやゆへに士きりし者一し
ありまひ空く存念をたすさるる愛なり
と身を多しりしやゆへに士きりし者一し
と勤まのすぶきと心すしきりしやゆへに
とわくすすべきと心すしきりしやゆへに
親身をたすべきと心すしきりしやゆへに

狐君命とたおしる

尾張大納言後徳少将の御所を
鳥屏用合させしむる物の活騰と
中々如き及ぶるに似せしむる
ありし物をとくししがど新用の
ありしと生肝を多くしきりし
ゆりしとわくしきりし
ありしとわくしきりし
しうばは生肝のふりしきりし
ものしきりしとわくしきりし

世の世に人なりしは例にたりし如きは書儀
了ゆらういふに及んやも何れに其て報す
るものいふれりしにぬらういふ者て報す
件の恨ぞんてんと自らすれども何れに
とまはぬがひがらういふ何れに報せし
者にも附しせむ細もあらざる業せり
もの地と云ふればやまがたも其て報す
のころぬまて喰ふやうの強欲の者なり
張るもやうかき夫婦の中らまゝいふもの

報すにあらしくしむるはいふはあはれ
しと大守きこしめぬ報ハ靈なるもの
なりとせめて云ふは空てはにあらぬ
んとして其の指をたせりしゆきて何れ
て世すもいふものいふに報すを
毛物なりして報すにいふののハ報す
今せんものものを同じ死すべし命人の
みせしるハ愧しきよつとて速く退く
位のおしむきを中すせしとわらき候

何ものよとらむにけりしとくきの畜類大君の教令を
かくむしりぬりぬるむとてとてとてとてとてとてとて
まらまらに物のはりふき

信人切腹

水戸の世をあの廣るく人妻りてははるる
某ハ小川三左衛門信人小ては難不肖ふは
當時に氣くもものまうくと流しひは物よ
こゝろく世ハ信人者多くぬる西きぬは
まらりまきともなまらぬはとて詳たの心

へき候りぬるくは一節とさじしし情をを
あそむふあふがのほひなりあもるハハ幅
も照後由しませあふすくきいさくもさく
にりしきしきとさるるははのりあふあふ
ゆにあつたぬが家信のあつくとてとてとてとて
まらりしきしきとて思ひよりとてまらるる
信人のあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

父の首へはくしりしきりし下せし賣りものおは
りしぎのしき地なまきりしりしりしりしりし
やとぬ二日るしりしりしりしりしりしりしりし
申とて来し則人くくくせりしりしりしりしりし
このりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
らんとおしりしりしりしりしりしりしりしりし
まきりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
去りしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
通し一糸上町西がもの北がどしりしりしりしりし

りしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
そしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
阿州の大寺賣紙と禁制す
阿州は越前郡のその土佐のあしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
阿州のあまきりしりしりしりしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし

二狐命にやし盗物と縛り来る
丹波龜山の嶽に松平伊豆や久阿の所法公及を
又く身ハずりゆんでさういりしまきく穿海乃
うへりて狐の取居りしものばいふま畜生もの
くくはやくの法牌おしくすの堪悪なりや
し唯日ハみく狐づくさうもいふまをぬけし
その奥殿の赤倉のまゝに物置しあるを咭しん
まやゆふ又くぬハ狐と葛にし縛り友狐ニいま
やのつゝの端でさへてなすしで結しは運し

毒うもれやまやさうとらむとつしな別をこに
てらうひ報しにりしとる

條修政家

松平阿波守久家素ら御海と市新ハやく日蓮守
つて孫と母ハ堅固の信者ありはる者中に
帰後の上人よりま末政とねらひ改定御公の一句
ゆへすべしとほのく云れしは源流めま現
上人とまらぬきあるが上人のゆゑとれ一句とある
念仏とまらぬきゆゑしとるハ大切の念仏と御公

家ハ疎畧ノヤリスヤハ念仏無名トハレハヤリ
定一ノヤリハ遊戯ノハレハヤリトス
ラヤリハ遊戯ノハレハヤリトス
宗ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
或門ノハレハヤリトス
何系内ハレハヤリトス
今ハ淨土宗ノ上人也今ハ淨土宗ノ上人也
今ハ淨土宗ノ上人也今ハ淨土宗ノ上人也
今ハ淨土宗ノ上人也今ハ淨土宗ノ上人也
今ハ淨土宗ノ上人也今ハ淨土宗ノ上
今ハ淨土宗ノ上人也今ハ淨土宗ノ上

の形を以て松樹ノハ念十念仏無名ノハ
化して一ノ念仏ノ念十念仏無名ノハ
しと云ハレハヤリトス
何ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
宗ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
二丈我ノハ念十念仏無名ノハ
紀伊ノハ念十念仏無名ノハ
何ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
宗ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
二丈我ノハ念十念仏無名ノハ
紀伊ノハ念十念仏無名ノハ
何ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
宗ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
二丈我ノハ念十念仏無名ノハ
紀伊ノハ念十念仏無名ノハ
何ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス
宗ノ旨ハめハ深シキハレハヤリトス

とよ討まき一者の親類と討一者の一様
とよ討まき一者一某の討りしるの不運せし地
みたまのすちやゆくの誰のうへにもとるの地膝切
へきし一いふまの心えし一とくしとくして
膝まきせお世に恨まうと堅く云ふす
討一者のいよくつめいふよりおにまう候
くはまきしとほしおとくはとまきいふ
おとまきしにたりのかへ病平愈せ一うは
と病しとほいぬいより亞相ふまきこししし

津島の者ともうらむとよのめしきともいふ
り一かた十人の内よめせしおいあるら
中絶ゆと帝曰此とくく
南殿大眼ちあまの家臣八戸ふちあゆむ此の百姓と
伊世のこのつり、斯ちけよめ、美名とやまこくび
しうば沙ちあもほつぬるにたの心て法没を
りしもれむハちいしよの法忠やあゆみ
りか法の法百姓とつらして却て他の速急
ふちりし思もれむハ思あまをのくくあせ

ふりぬくりははせきしりく感心し一巻整丁
出づればしつとてよしとせしめらるしき者
あり今もつらしき言二千名をの田代向後元
丁を造りしつとせよ及んそとれはは
のやま

人々と狂心

中根大隅さきの細よ久世平多くたりし
詩小細しと探りてはよめらるしと詩意し
つらも本他よとせよひみんを探ひる空

大隅さきより人の心と書出しとけりし
うらまれの何れもよるもわらむとてむきぬ
しめあきの初めに西の山あふの中しは是れ
人の心と書出さしとけりしとて人々
とて別人とせよとせよとせよとせよ
らりしよの心と書出さしとけりしとて
とせよとせよとせよとせよとせよとせよ
とせよとせよとせよとせよとせよとせよ
とせよとせよとせよとせよとせよとせよ
とせよとせよとせよとせよとせよとせよ

照地よりの山に寺の碑と批判す

高木桑松と東洞院の角に寺の碑と
ありし板金傳説と多し
春日の寺ありし
跡ありし
寺ありし
跡ありし
跡ありし
跡ありし
跡ありし

これとて... 寺ありし跡ありし

柿葉と賣易てたぐひと礼葬とせしむ

備中... 東照... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし... 寺ありし跡ありし...

卯之換とするやうにささくしはまはらうたてき
ふりうらふらふの海へまはれもろくどやうか
損らまをせしむるやうにせし悔しやうか
るの換とほもろくしての文の痛むりき
こころししあまも自百平文かろくか
りそんゆらうの海へまはれと損らまをせし
めをびれあふよろくせてひりく親づ解いそぎ
けの積りもあつとく娘あやうの遠ら
船とすく国あつ船りかまも力あつとら

うらまはれ換とするやうにささくしはまはらうたてき
ふりうらふらふの海へまはれもろくどやうか
損らまをせしむるやうにせし悔しやうか
るの換とほもろくしての文の痛むりき
こころししあまも自百平文かろくか
りそんゆらうの海へまはれと損らまをせし
めをびれあふよろくせてひりく親づ解いそぎ
けの積りもあつとく娘あやうの遠ら
船とすく国あつ船りかまも力あつとら

貧乏頼れし已の船と出す

大坂後町へまはれまはれまはれまはれ
ひりうらふらふの海へまはれもろくどやうか
損らまをせしむるやうにせし悔しやうか
るの換とほもろくしての文の痛むりき
こころししあまも自百平文かろくか
りそんゆらうの海へまはれと損らまをせし
めをびれあふよろくせてひりく親づ解いそぎ
けの積りもあつとく娘あやうの遠ら
船とすく国あつ船りかまも力あつとら

新嘉坡之立後法やひしてそれ由る屋敷にありし
いづらの中へりて破却しし多かりし事由記を以て
ゆめよ物まゝして今度の我々今くけりては所不也
所いれし他方の執の石ありし人三日の中に往後
又千ぐべして云て是れをさききふふ三日女のゆめに
件の物まゝして所を移して竊我々等して刑罰
せしと云と又そねねと極く出さぬへ大に
老執と執してはけし敵もあつてあつたを
下してやし海と造りしし多かりし

見とのうして徳をさす

尾州の佐長さまよりくりし一人ハ右智摩で出武
屋をさぐひらりしは度中人より出舞に舞をして
七百名をぬりしと西まよりとさりしゆらるあつた人
汲井く知りて百名ととららましうたはさま美智
しハ我汲井く知りしと西まよりとさりしゆらるあつた人
望忽ゆしとく換那やゆらるハこれ大守の位か
出たハハゆしとく換那やゆらるハこれ大守の位か
とて我々切腹の事とありて用事しとて時

執持職の成候を以て
いふも故の所より
此れと教度ゆきし
者ゆきとかくに
おのいさりめ
かきり立馬や
儀は
ありまて
けりま

秘符病を療し却て宗旨を祈ふ

京やす丸長者町の所あり
日蓮宗として祈りし
るの大せいの
秘符とありし
まら
りしとありし
たりやるといひし
の名号として祈りし

宗前とありしめ 誓願寺のどらりしと也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

新著聞集

俗談篇第十七

鈍狐害とやぶじり

隣屋四人二或二活

悪馬徳了一馴る

急節謀言

愚者町啼

吉祥寺村異獣

海陽小左衛門

夢中に書く室

新井のりざりい

不運の賤^{さい}以^もけし出^でとるち

東光^{とうこう}法師^{ぼうし} 回国^{こくこく}

妙法蓮華^{みょうぼうれんげ}經^{きやう}とを白^{しろ}りる 翻^{ほん}書^{しよ}

痴^ち人^{にん}又^{また}とあめじ

猶^{なほ}人のよめとあさる

祖父^{そふ}の煙^{えん}取^と乃^の重^{かさ}奴^らとほり出す

祖父^{そふ}の煙^{えん}一^{ひと}金^{かね}とほり出す 糞^{くそ}とらふ

宗^{そう}徳^{とく}常^{じょう}と咏^{えい}す

貞^{てい}婦^ふ歌^かて以^もて西^{さい}行^{ぎやう}と戲^り論^{ろん}と

聖^{せい}梳^す威^い了^{りやう}れそりて浄^{じやう}とて

鄙^ひ恪^{こく}の沙^さ門^{もん}遺^い書^{しよ}

貧^{せい}人^{にん}金^{かね}とひほひ持^{もち}親^{しん}了^{りやう}りふ

古^こ代^{だい}質^{しつ}朴^{ぱく}

同^{どう}越^{えつ}の名^な同^{どう}越^{えつ}書^{しよ}

ぬ袖でひききこ人た右の目しを白くする
 ハ左の目し白くするをいふと告つぐれハ素すた
 ぐと海うみきけりハ少すくくぞいふんそへへ姥おばが儀ぎ
 了し腹はら痛いたしぬ業わざとすくハきよめとす
 了しはやく癒いまきしりぬるにとはぶやまゆ
 了しゆいせきれハ左ハ目し白くきり所ところてハ
 類たぐひもなき妖まじめなりしうた業わざかしくしく
 毛けもよほもほくゆりしまくゆゆきせよ
 了しゆくのすそとあめ口くちのめいそと業わざしく

了してハ先まづ眼まなこ拾ひろて脚あしより上うへより咽のどよりへへ姥おばと
 了しゆりきくそとあめ口くちのめいそと業わざしく
 鳴なく取とてては手て報うらりる又また家いえ来の者ものハ
 供たまの物ものとまきり報うらりる未ま熟じやくの物もの了しる
 妖まじ換かりるのすけりし

隣屋りんご江人に二に夜よ二に話わ

大坂お八や八やの荒あまのママ荒あまをを買かひにに源げんは
 打うちゆらんそと隣りんごの亭ていとと何なにもも朝あさ
 出いで書かき今日けふハ親おやの命いのち日ひくそと業わざと業わざ

入し賀嶋も氷ま果はし歌一人を橋の欄干
少く環と実立しにの者味見所々雨りり
はらとりよ又味もよう同土付するらとく
つとく向く環と引るれを頼て境内の中
駒とひくして号の士の何と云くは返し
若月くみ我ハ有るひの大將擗園をあらうと名
はくくく因にのしと水老後ましく
云かして類す一歳後ましく

愚歌 歌謡

西尾因懐ちく之終むのいぬあひくは坊坊出ねちく
ひまむへバのやとて入る意ありて海也とれ
あまハ終くを笑しるまのまを笑しる
首達の終はふ海りるせんそ業城まじひ
膝のやちくく来る取を只一らちせく
因別あやち終きとて進ハくちる科おまの
あつちのこひひまむくか何の科のまき
くも進のふく目めましくあつちちと
アまんとはししと笑しるましく

にわりのいせのくちの不通一々(ま)かたりん

差申一書と書す

京都一西公に多き書しり者のも代あるあ

ゆめ一書と切報しり書さあねどりきわらうの

く一候れをせくとあやあはきまのし

かど候てくまのりすねバゆ理佐歴ちを(新)

せんが一怒一も書とえんて切やん(ま)

了候ていはず候あるたもく(一)又

あゆ候てあしむと待りりいひとすせ

舎一のま白ぬ三日終り男海くま出ましくの

中上多候くハ孫も父母とまら(一)恋ふい

中不目もあてらまびん某娘のりハ不(一)候

ま(一)也一ねよりすばくハ費て父(一)生を孫

とヤ一あひ父ハ女(一)の端とあし(一)候りも

しんま(一)く(一)あ(一)の者(一)の命(一)活(一)ま(一)す(一)あ(一)ま(一)ぬ(一)れ(一)と

ひ(一)い(一)す(一)り(一)と(一)致(一)き(一)し(一)う(一)だ(一)ず(一)候(一)り(一)ぬ(一)ひ(一)と

ゆ(一)く(一)く(一)あ(一)む(一)た(一)が(一)や(一)や(一)と(一)致(一)る(一)の(一)は(一)も(一)あ(一)り(一)る(一)ん

あ(一)り(一)る(一)ハ(一)一(一)候(一)ま(一)て(一)ま(一)判(一)せ(一)よ(一)と(一)一(一)れ(一)と(一)り

も多しとぬく少く宰舎せりし多しあり
吉祥寺村美獸

京の南吉祥寺村より吉祥天女の園帳あり
て人形あり白のりあり西の墨の村より
古舞念仏と法樂とほとある鐘大鼓とい
ふくしく敲きしき其響くやおそき
吉ん怪しき獸も多し出る百姓の椽の下に
おどろくしと顔て諸おの口くせめて生挿
りあり其おのち面ハ程り似て鼻より額

まて悪く項ハ白く背ハ悪く腹白く尻丸く
して淫利く似たり尾ハくして赤足ハ土竜
のく後足ハ長くて大くひくく筒よりハ
串挿るものくひくく似たりよよのく見え
る人形になりし地蔵の甲のりあり

海陽少左の物

海陽長門津の町より少左あといふ絹より
日暮乃乃目利せしありあわの河原家にて一
もやもえしておゆふり又もあつたハよ海く

つらうしあく返くあれハ中なる大きく
いづれ情^{こころ}もきりあふまのうましくてとて
後^{あとの}と又せんといふまに門^{かど}よりまきし一石^{いし}で
きりぬ刀^{やいば}でせんくくおてううそのちあはれ
うま今一度又せよ中^{なか}のちり新^{あらた}りぬをねしく
りう^{うら}と出^でる中^{なか}にして袖^{そで}でしねあつぬ口^{くち}
せきく^{せきく}と除^{のぞ}してせうりぬ
新^{あらた}のつざりぬ
いず八^{やち}町^{まち}堀^{ほり}居^いたり席^{せき}乃^の七^{しち}葉^はが^が仏^{ぶつ}檀^{だん}一^{いつ}如^に敷^{しき}

多^{おほ}のれ一枚^{まい}つりして後^{あとの}なるひそかしくて人^{ひと}と
下^{した}人^{ひと}ともを咄^{はな}つりぬ席^{せき}の七^{しち}葉^はとかくぬらへ
大^{おほ}のり出^でるううとよ新^{あらた}きもの何^{なに}の辨^{わかん}もろく
我^{われ}所^{ところ}もかや押^{おし}くともきぬこくよ縄^{なわ}とやあし
町^{まち}中^{なか}に出^で合^あふハ何^{なに}のぞくまハ七^{しち}葉^はハ切^きり丹^に
りう^{うら}證^{あかし}披^ひをぬらうとて作^{つく}のれとさるて出^でせば
又^{また}人^{ひと}くもの線^{せん}を糸^{いと}よと拍^ひくまハ何^{なに}のらんとし
そのらう新^{あらた}き大^{おほ}もねくうとらふ後^{あとの}なるおと海^{うみ}ま
急^{いそ}き縄^{なわ}とよきゆりしとるんと後^{あとの}をすれとも

在るに訥人とよ書送の予すべからば都立も
は急度曲り了り作かへきとありしと也不運
の程に也

東行法師回國

ちりり東行とよ僧菅屋隠居とよ人の
強めりててててて回國とよりけり
真別松浦とよりけり
取におつし別ち先へ出たれり
しやで不分別のありり東行ハ西行お唯て

云りんゆりハ歌とむへてとるれん

礼よりぬよふ安てつとぬとれ名もゆり
拘上極

とつよふりけり
獄目にけり
禁獄

せりけり

妙法蓮花經とよ書

海陽庵本寺日進上人
法震筆の題目とよ書

とよ書とよ書とよ書とよ書とよ書とよ書

他因後水尾院妙法蓮花經の
み字とよ書

とよ書とよ書とよ書とよ書とよ書とよ書

信をせんと結ういふしとるもれはふらふ
 養年先くくさくさむしくすくよきくせ
 法ある大所くくやうせくぬしぬぬまぶか
 南島の二宮とくくくくくくくくくくく
 久や斐問くくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくく
 しうなけのくくくくくくくくくくく

病入文とよのこ

江戸の松丸高貴の御んや丸丸くくくくく

信くくくくくくくくくくくくくくく
 竹のくくくくくくくくくくくくくく
 しとよ代ハ笑さぬぬ詞くくくくく
 ぬ文音くくくくくくくくくくくく
 心ゆく木木や仲会くくくくくくく
 てつりしとくくくくくくくくくく

猫人のめくくく

江戸の上寺乃松寺の徳水院くくくく
 色くくくくくくくくくくくくくく

何りあるか何れしるかや死にがく一葉のま
たち雨を三室と大く息してかくる人々
は多あか猫まゝいこや粗相なり化すやや
云ふれハ世もこのりよしめく逃れしるあめ
えくけりし元孫子沖のりなり

祖父の埋む所の雲女と居り出す
大坂さうしきし安達寺町のやせ布やあき
江別のまのまき其甲祖父のけしこあめ
こまのき此陣の町まのまき大台のまのま

の代了埋むまきとや世とん何をそりけり
某とまふあまのりしてまぬりれとるれがら
ゆそ堀に雲ぬりてけりし下座のまのま
何の便もまきざりしとらん

祖父の埋む所全堀ゆて難ふあま

信州伊豆郡麻生町の坂あるとり者山ふ金と
埋むまきにまきとて孫の代了
あきこれとるまき護の保種肥後まの
家老のあきにやくとて鳥取と送りし

やどらまののりてえまらあいらうぶきりし科道ま

やうしとて禁獄せしれいと也

宗祇帯と咏す

宗祇法師の西廣法のまにちきくれて夢の

ひらとてえん

うきまうり火ていも水のりりか

それま水鉢誰しといふてわらけの足ぬき

あや

ほまうり火とうがらねほら

賤婢歌とて西行と戯論す

信州上田とる取乃らやくに田中とる知あり

西行法師のけしと託盗しきふとる

驚らけりも女かて盗まほりさしにあむの

うても驚らも盗のまうる

と口しきもあひるれがふの女

驚らくが伴とてしと稱匠よるれ田中のうあめはに

められハやくまうとらう

野狐威よおそはく驚とえす

尾州竹腰山城守左の側ま〜
了業坊了了〜
てんもべ〜
聖朝庭の巻〜
あれハハ〜
それハ〜
いふ〜
ろし〜

鄙略の凶門遺書

何州吉成村の随泉院ハ日暮孫ハ略俗〜
百貫目余〜
サマ〜
山〜
の百福寺〜
百福寺ハ〜
ワガ老僧志の〜
ヨク〜
し〜

て調へ封し至^ま白銀十枚^{まい}書^かし押^お形^{がた}せ取^とり
 了^りり多^く至^まりとのハ迷^ま書^かよりしとて多^く取^とり
 新^{あたら}む儀^ぎのりりか^らり取^とりしとて取^とり
 ひもき^りるんが^り書^か記^き場^ばハ^は田^の地^の内^{の内}書^かし
 了^りし火^{くわ}葉^えに^に了^りしと^とり^り書^かし
 師^しの^の布^ふ糸^{いと}又^{また}ハ^は銀^{ぎん}十^{じゅう}枚^{まい}の^の書^かし
 百^{ひゃく}福^{ふく}寺^じ先^{せん}任^{にん}の^の代^{だい}へ^へ湯^ゆ子^この^の書^かし
 布^ふ糸^{いと}了^りし^しり^りつ^つき^きお^お七^{しち}十^{じゅう}自^じと^との^の書^かし
 悉^{しつ}く^く了^りし^し竹^{たけ}葉^えと^と切^きり^りし^しり^りの^の書^かし

非^ひ更^{せい}と^とし^しき^きも^も人^{ひと}と^と呼^よぶ^ぶを^をし^しり^りと^とま^ます^すの^の
 とも書^かき^きり^りり^り書^かの^の書^か記^きの^の火^{くわ}葉^えの^の書^かし
 の^のお^おり^りと^とし^しと^と其^{その}後^{のち}身^みの^の儀^ぎを^をし^しり^りと^とま^ます^す
 貧^{ひん}人^{びん}令^らせ^せし^しり^り却^{かえ}り^り換^か難^{がた}あ^あり^り

何^{なに}れ^れ表^あ門^{もん}法^{ぽう}の^のま^まへ^へと^と書^かし^しり^りと^とま^ます^す
 した^{した}書^かし^しり^りと^とま^ます^すと^と書^かし^しり^りと^とま^ます^す
 地^ち取^とり^りし^しり^りと^とま^ます^すと^と書^かし^しり^りと^とま^ます^す
 へ^へり^り急^{いそ}ぎ^ぎお^お書^かし^しり^りと^とま^ます^す
 未^ます^すと^とし^しの^の書^かし^しり^りと^とま^ます^す

しそ酒者^{サカベ}とゆしそ人^{ヒト}と管^{ツバ}懸^ケし聖^{ミヤコ}日^ヒぬ人^{ヒト}ヤ
へりて銀^{ギン}と緋^ヒとに共^トんと久^{キウ}はつとぬと給^{シユ}小^コ判^{パン}
りしは似^ニ合^カはしむるもそとくしゆ^{シユ}乃^ノ
ま^マにひともす入^イじぬれ^レ町^{チヨウ}に連^レり^リ臥^シるを
家^カ忠^{チウ}しそ人^{ヒト}継^{ツグ}りて答^{コタ}日^ヒ了^{リヤウ}海^{ウミ}左^サの者^{モノ}にそ
ゆ^ユす^ス尋^{ズル}し^シあや^{アヤ}まのゆ^ユじしとそ^ソ海^{ウミ}免^メ
て^テび^ビう^ウそ^ソの^ノい^イそ^ソ者^{モノ}し^シき^キ海^{ウミ}人^{ヒト}や^ヤま^マの^ノ望^{ノゾミ}
し^シは^ハ實^{シツ}り^リとて^ト文^{ブン}へ^ヘき^キ候^{コウ}り^リて^テ支^シ好^{コウ}も^モ難^{ナン}
所^{トコロ}し^シも^モあ^アら^ラう^ウゆ^ユじし

古代質朴

成^{ナリ}集^{シユ}人^{ヒト}の^ノ友^{トモ}知^チ名^ナと^ト少^シ老^{ロウ}と^ト大^{ダイ}將^{シャウ}軍^{クン}
家^カ康^{カウ}公^{コウ}の^ノ見^ミ少^シ短^{タン}は^ハあ^アら^ラう^ウの^ノ時^{トキ}海^{ウミ}の^ノ數^{スウ}
そ^ソめ^メん^ンあ^アの^ノ表^{ヒラカ}ハ^ハら^ラん^ン小^コま^マん^ンに^ニあ^アの^ノん^ンと^ト竹^{タケ}妻^メの^ノ
若^{ワカ}そ^ソあ^アに^ニそ^ソの^ノ所^{トコロ}し^シと^トそ^ソの^ノせ^セ出^デら^ラれ^レに^ニ案^{アン}のお^オま^マ
の^ノ児^コ少^シ短^{タン}い^イら^ラう^ウ美^ミし^シと^トそ^ソの^ノ念^{ネン}り^リ又^{マタ}後^{コト}府^フの^ノ
沖^{ウチ}條^{ジョウ}酒^{シユ}堂^{ドウ}の^ノ町^{チヨウ}虹^{ニジ}梁^{リョウ}の^ノう^ウへ^ヘに^ニ所^{トコロ}知^チし^シき^キぬ^ヌり^リ
大^{ダイ}將^{シャウ}軍^{クン}沖^{ウチ}條^{ジョウ}し^シら^ラぬ^ヌひ^ヒく^ク集^{シユ}人^{ヒト}の^ノ下^カ帯^{タイ}せ^セら^ラの^ノ
所^{トコロ}と^トそ^ソの^ノ宣^{ノボ}い^イし^シは^ハ類^{ルイ}て^テ沖^{ウチ}條^{ジョウ}の^ノ人^{ヒト}の^ノ紬^{チュウ}



葛深つよふかの言こと新あらたて二節ふたへきよりしして今いまに抄しりぞへて
かの家いへよりししとらなり

同越どうえつの名な同越どうえつ遠えん鴻こう

尾明おのあきらの男おとこ大隅おおよしとよ人ひと上あへて花はなをて他ほかの
縁えん但たてちりりうが黄わう同どう清しやう意い巧くわうして政せい
易えき二に竹たけりりけけ皆みな同どうのうう又また田た太たな
同越どうえつ斎さい了りやう内ない珠しゆ也や也や同どう越えつ彦ひこののし
これこれも同どうししく越えつりりけけいいままるるくくもも如ごとくく同越どうえつ
ハ人のうへりりるまこのうれれ同越どうえつとと名なけりり

いいははもも又またままねねるるもも如ごとくくいいははもも如ごとくくししとと人ひと
時ときりりも

新著聞集

雜頁篇第十八

鳳来寺堺夜叉髑髏

冬の日本中ノ杜鵑の尸と見ゆ

弘法大師遺訓

源氏の髑髏

阿波二大髑髏とほり出す

十八檀林

大砲光とくわい

牛お生でろく夏にみりぬと部

非人詠歌

安土問答

佛種用と制す

曼荼羅丸

吐陸原在国の宗流布

熊坂の群花亭詠歌

兩頭の小龜

明人の子孫

圓光大師石面研号

富士の雪今古の美

毒婦人と碑す

猫傳生と告

大小龍引

幡隨和尚葛衣名号

土佐高知大龍家とやよる

御製のと和哥のり

一口残翁

暖甲虫と針と言とつて思とつてよ

つし想まぢつり太田徳中ちきく歌司にハ
に原とたあとの甲斐庄をたあのためく張るし
て板屋の地形をひきまゝもちてゆき
その悪をほりおしきり扱てそれハゆり
一夫とせりの體験あてつし皆人たど海き
つやしとるかに寺傍のいそぐれん縁起
あつすその鬼の首つておりきとらり
つしうたがのくくに埋もせき

そのは本中に牡鶴の尸と見え

信州のまきのなほ作あつとよ者の下人そのは
と切りありに節末のけに節公の死つと見え
うれの對稱つともるぐもゆりとして箱よし
がま後のちびく志れして聖子の三母の末はよの
しつきり六件の節公飛出てゆりにまきのが
つ
たつちのちまふこりの節公其を海ちてまに
とのしハ秋より後ままをちちまのち
隈きちあつ又冥途の色といひもあつ

藤ノ葉ニまらぬと云ふ

弘法大師遺訓

弘法大師云々
一曰我ハ此ノ真言成就ノ地ニ
更ニ宗宗ト建立スヘクビ但ク念仏ノ制ノ
外ナク空法ハ兼和ニ三昧正日に入定ス
真言ノ行人念仏ノ妙者ト云々
生じて真言ノ念仏ノ妙者ト云々
念仏ノ妙者ト云々

深法ノ髑髏

延宝三ノ年
三尺をわくノ髑髏
の大小一寸八分
其葉一枚
大地ノ下
阿波

阿波ニ大髑髏ヲ出ス

阿波勝浦郡大子浦子代丸観音堂の修徳

十八公うれは、清子孫の松平乃侯家と御家の
白旗源氏、清子代五代まで、右権左権、
その清子と云ふ

大砲光と云ふ所

寛文五年、房州平野郡、右龜崎の御中儀
了、光り如や、清子の仕業も、やそいつ、
きこ、源氏、女老、清子の、清子の、清子の、
清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、
二町、清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、

七八、清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、
清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、
清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、

牛越、清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、

京から町、牛越、清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、
清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、
清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、
清子の、清子の、清子の、清子の、清子の、

所りのまゝに一かきも落さんまゝに
何れ安土と何れと浄土とやと日蓮宗と浄土
浄土と云ふの真安問ていよく法苑八抽の中に
念仏の我なりと日蓮等義ていよく念仏あり
真安又よみていよく、我念仏の我なり何れを
我とわづる念仏で法苑と説く、我うにわづる
日蓮等擬我するを又いよく日蓮等の日
光なりやとや、真安へ此こそそいよく法苑
の法苑と浄土の法苑と一紙も別なり、真安

よみていよく、法苑のいよくも一紙も日光なり
又いよくいよく浄土が何れで法苑の法苑捨用閣柳と
云て捨用閣真安よみていよく捨用閣柳といふ
念仏とよみていよくいよく念仏と修する
核のまゝいよく念仏とよみていよく修する
なり日光なり又いよくいよく念仏と修する
核のまゝいよく念仏とよみていよく修する
真安よみていよく念仏とよみていよく修する
の三紙も別なり、念仏とよみていよく修する

ろくろの八日大法王聖徳太子説法明眼論に
速欲出生（速欲出生）然煩（然煩）根本（根本）一業（一業）當知（當知）一業（一業）正義佛心
是也（是也）若（若）不（不）學（學）一業（一業）而（而）此（此）生（生）於（於）者（者）無（無）有（有）是（是）知（知）然（然）に
朕（朕）是（是）法華持者也（法華持者也）向（向）より（より）より（より）し（し）法苑の文（法苑の文）毎
ハ由（由）より（より）花（花）教（教）了（了）了（了）と（と）共（共）れ（れ）太子大法王（太子大法王）は
御（御）り（り）と（と）ん（ん）や（や）と（と）批判（批判）し（し）て（て）ま（ま）あ（あ）と（と）ま（ま）う（う）る（る）時（時）貞安（貞安）又
日（日）ま（ま）く（く）ま（ま）て（て）い（い）く（く）早（早）察（察）子（子）未（未）然（然）其（其）新（新）の（の）文（文）に（に）て
示（示）お（お）の（の）法（法）傳（傳）す（す）と（と）バ（バ）新（新）身（身）に（に）の（の）妙（妙）の（の）一（一）業（業）せ（せ）ハ
捨（捨）ち（ち）と（と）ま（ま）て（て）ら（ら）る（る）又（又）あ（あ）ら（ら）む（む）わ（わ）く（く）日（日）蓮（蓮）業（業）身（身）に（に）の

妙（妙）と（と）け（け）つ（つ）く（く）多（多）び（び）し（し）て（て）執（執）い（い）ん（ん）人（人）い（い）ん（ん）と（と）は（は）介（介）し（し）
わ（わ）ら（ら）ふ（ふ）妙（妙）又（又）大（大）君（君）士（士）批判（批判）し（し）て（て）い（い）く（く）これ（これ）其（其）新（新）の（の）
妙（妙）う（う）ま（ま）る（る）文（文）句（句）り（り）が（が）た（た）に（に）新（新）法（法）の（の）由（由）き（き）と（と）判（判）を（を）
ま（ま）き（き）バ（バ）あ（あ）の（の）日（日）蓮（蓮）業（業）し（し）て（て）何（何）ぞ（ぞ）新（新）法（法）の（の）一（一）業（業）と（と）は（は）
嘆（嘆）り（り）と（と）も（も）い（い）ふ（ふ）大（大）君（君）士（士）い（い）く（く）法（法）苑（苑）と（と）ま（ま）り（り）止（止）む（む）
不（不）須（須）説（説）我（我）は（は）法（法）苑（苑）難（難）思（思）ゆ（ゆ）と（と）も（も）妙（妙）ハ（ハ）不（不）平（平）舌（舌）
と（と）れ（れ）と（と）ん（ん）ま（ま）り（り）い（い）ん（ん）マ（マ）又（又）あ（あ）の（の）日（日）蓮（蓮）業（業）乃（乃）終（終）
ま（ま）り（り）書（書）ゆ（ゆ）り（り）妙（妙）上（上）に（に）妙（妙）あり（あり）つ（つ）ら（ら）ま（ま）の（の）妙（妙）を（を）又（又）何（何）時（時）
大（大）君（君）士（士）批判（批判）し（し）て（て）い（い）く（く）は（は）妙（妙）と（と）り（り）も（も）て（て）妙（妙）す（す）ハ（ハ）何（何）と（と）ま（ま）

西法の妙も八十妙千妙百妙千妙百て百廿妙
すしこれハ法相の妙もんバむり取滅の法も
とり入りのまもくらの時日觀等因口下んは
貞安せときて法花の妙もゆらちるびんて云
て甲え聖人せくしめくして製裳衣裳と別
ゆるらりし何の批判者ハ觀禪非の何れも
難老りしひぬ十界因果大居士もくあへまじらう
そお外又あ人ありし一人ハ和那法隆寺の
仏さまの法相の學通として大居士維大經

了り時の所通り又ま人の善長老何れも
西堂のりしもの善長老ハ然ハ老取らるる
弟子とて多く善也を修めりて批判せん
黙然とせりしと何れもに善なるるまをて
大居士も人して判まりりて天道くくする
をわしんやりのまもくらの信長及軍の西内
海よりまふらりてまもるの批判せりり今
りてこの海よりあしむの海よりしんてま
ひてまへく上位りて法名代ハ鐵田と

その兼次河守の三人と名をなれりし時
天竺の正月廿七日に難陀尊者因景
辨ありしを案のりしきるまゝ信長記海陽
大聖院の記録等より作りしとす
佛種円と製す

智鑑和尚川越蓮馨寺より後職しき多し何
をも村々恵心の作り法院の縁の甚く破
損しつらび作りしと和尚よりすくく
て修管内しき其前より脛のりしとありし

繪りしは清浄なり製し丸なりしと云く佛
種円と流しき多し孤つも瘡病の薬に絶え
き多しき多し貴きとありしりし如妻
ハ今ひりし山聖院の夜會堂に安置しき
曼荼羅丸

延宝の甲に大聖院より香上人當麻古傳より
修治の河久の乱離下りきあ藉乃多の微層及
積るもこの香蕙乃抄塵もくく拂ひし
り拾ふし始りし抄中より上人おひりし

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは
きこのうつくしくいふも 又寝て誰の 寝おとのりなく
室へ一首の和歌をせんられし

址

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは

咄

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは

昨

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは

仕

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは

圃

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは

よの源

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは

熊坂のむらさき

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは
あひのふかに 暮れぬかたのしるは ことわりのしるは
後世のむらさき ことわりのしるは ことわりのしるは
入て一首の源

ゆきよのふかきへる人 ことわりのしるは ことわりのしるは

かた強敵乃悪黨よりしりしをてきり山乃驍
るしかくてきりきんたつるあたるをてきり感
しあつ

兩頭の小龜

地宝子の上直大久保如美ち久の伝中り西頭め
懸出りしと懸覺の後おれへ下されし其
毛一才にきりしりし

明人乃子孫

いふはき海を河田中七左とよまふ大相乃

鄭一官うま國姓爺いおろしハ錦舎が
アハ伯父うり父ぬりて英雄して韃靼人
いぬさぬいしと海海の訶状を海のりて
新朝セハ地宝七のハ其乃りり

丹光大師石面新号

七佐の玉おろしの浦根とよまふ水底
ア丹光大師い海乃ち其乃新号をよかき
まふいりしと其乃いしはいへに
をいぬの中りりりりり南をの二部い

その前と如きものなり又新撰菟波集の記す
宗師法師

とて後ハ云々云々云々云々云々云々云々云々

其集ハ後拍原院中宗師法師ノ詔にて

撰まれり云々云々云々云々云々云々云々云々

今と見ゆや何れ云々云々

毒物人々と辨す

寛文七の夏三月十八日に佐州河津なるの

所より物々々々々々々々々々々々々々々々々々

譚語と云い物々々の語を十日の間に云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

猫物と云つぐ

大坂のふり大運といふ強盗ありし日某賊

移り寛文十の春二月三日大坂の倉敷に

して不便のありたり云々云々云々云々云々

成佛の云々云々云々云々云々云々云々云々

獸中の第一の虎云々云々云々云々云々

せうせうぬいさるる 醫者の巫女もあはれにさる
るかりしうたもわが 法華の一首もあまの
ほあはれうらやまのせうせう

あはれなる聖母のしるしをわが世に
あはれに

一口残翁

日光山のすゝとに百重の老翁のあはれ
残と名つものゆへにさうてあはれ
あの名も何れも言のひもあはれ
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

うていさすも生けしとあはれなるあはれなる
一口のものをさうとあはれなるあはれなる

腹中二蛇と對言のあはれなるあはれなる

京あはれなる二條上町屋のあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

腹中二蛇と對言のあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

言便あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

